

# 令和7年度 国本西小学校 学校評価書

## 1 教育目標（目指す児童像含む）

### (1) 基本目標

心身ともに健全で、自ら考え正しく行動し、心豊かでねばり強い子を育成する

### (2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

《目指す児童像》 合言葉：「元気よく かしこく 仲よく たくましく」

- |                 |               |
|-----------------|---------------|
| ○ 明るく 健康な子      | 健康な心身の育成      |
| ○ 進んで学び よく考える子  | 自ら学ぶ意欲と態度の育成  |
| ○ 心が広く 思いやりのある子 | 豊かな心の育成       |
| ○ ねばり強く やりぬく子   | 困難を克服する実践力の育成 |

## 2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標の具現化を図るとともに、「子供が行きたい学校、保護者が行かせたい学校、教職員が勤めたい学校」とするため、『特色・活力・潤い・信頼』をキーワードとした「総合力のある学校づくり」を推進する。

- (1) 学校や地域の教育資源を積極的に活用するとともに、全教職員の創意工夫を生かして、児童が生き生きと取り組める本校独自の活動の充実を図り、「特色ある学校」を目指す。
- (2) 小規模校のよさを生かし、常に子供の視点に立ち、一人一人の個性や能力を生かすとともに、教職員の特性や創造性を生かした、「活力あふれる学校」を目指す。
- (3) 全教育活動を通じて心の教育の充実を図り、正しい規範意識を身に付けさせるとともに思いやりの心を育み、「潤いあふれる学校」を目指す。
- (4) 教職員が教育的愛情と高い倫理観をもって職務にあたり、家庭や地域との連携のもと学校教育に対する理解と協力を得ながら、地域とともにある学校づくりを推進し、「信頼される学校」を目指す。

## 3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 教育活動の質の一層の向上を目指し、カリキュラム・マネジメントにより学習効果の最大化を図るとともに、本年度の重点目標等について学校と保護者、地域住民が共有できるようにしながら地域の教育力を有効に活用して特色ある教育活動を推進する。
- (2) 「明るく 健康な子」を育成するため、健康で安全な生活ができる基本的な生活習慣を身に付ける指導と、体力の向上を図る教育活動を推進する。
- (3) 「進んで学び よく考える子」を育成するため、目標をもって自ら学ぶ意欲を高めながら、基礎・基本となる知識・技能を確実に身に付け、それらを活用する思考力・判断力・表現力を育む学習活動を推進する。
- (4) 「心が広く 思いやりのある子」を育成するため、自他の生命と人権を尊重する心や思いやりの心を育む豊かな体験活動と、教育活動全体を通じた道徳教育を推進する。
- (5) 「ねばり強く やりぬく子」を育成するために、教育活動全体を通して、困難を克服する実践力を身に付け、挑戦する心やあきらめない心等、心のたくましさを育む教育活動を推進する。
- (6) 全ての教職員が、倫理観と使命感をもつとともに、真摯な態度で自己研鑽に努め、児童一人一人を大切にしている教育活動を実践し、誰からも信頼される教職員として職務に励む。
- (7) 教職員が健康で生き生きとやりがいをもって勤務できる環境を整え、児童と向き合いながら質の高い教育が行えるよう、働き方改革の推進と組織力の向上に努める。
- (8) ○地域協議会をはじめとした地域や地元企業との連携強化により、地域とともにある学校づくりを推進する。

[国本地域学校園教育ビジョン]

「自ら学び 心豊かで 元気な国本っ子」 ～地域とともにある学校を目指して～

#### 4 教育課程編成の方針

- (1) 学校教育目標の実現のため、「日本国憲法」「教育基本法」「学校教育法及び同施行規則」「学習指導要領」並びに「栃木県教育振興基本計画 2025」、宇都宮市教育委員会の「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」「うつつのみや子どもかがやきプランⅡ」「宇都宮市学校健康教育推進計画」「令和7年度指導の重点」「小中一貫教育カリキュラム」等を十分に踏まえ、学校及び児童の実態を考慮し、地域とともにある学校としての教育課程を編成する。
- (2) 教育目標の具現化を図るため、本校の実態並びに児童の発達段階や特性を考慮し、地域社会や保護者の願いを踏まえながら、確かな学力と心豊かな児童の育成を目指して、知・徳・体の調和の取れた教育課程を編成する。また、義務教育9年間を通した子供の学びの連続性を図るための教育課程を編成する。
- (3) 学習指導要領の趣旨を十分踏まえた上で、自己の生き方を追求する力の育成、基礎・基本の定着、思考力・判断力・表現力等の育成及び個性の伸長に重点を置き、各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動との関連を図り、調和と統一のある編成に努める。
- (4) 児童の発達の段階を考慮し、言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や、現代的な諸課題に対応していくための資質・能力を育成することができるよう、教科等横断的な視点で、各教科等の関連を図りながら教育課程を編成し、カリキュラム・マネジメントの充実に努める。
- (5) 前年度の教育活動の評価・地域社会の実情・児童の実態を踏まえ、柔軟な指導の形態・指導法の工夫・教育資源（人・地域・機関等）の活用に努め、一人一人の教育的な課題がより確実に解決できるような展開を工夫する。

#### 5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印

- (1) 学校運営
  - ① 学校課題を常に意識し、その解決に向けた具体的な策を講じる学校運営の推進
    - 「国西プロジェクト～特色・活力・潤い・信頼をキーワードに みんなでつくろうすてきな学校～」として、学校経営の重点を示したグランドデザインを刷新し、教職員・児童・家庭・地域との共有を図る。
      - ・ 「学びのプロジェクト」「心のプロジェクト」「健やかプロジェクト」「国西プロジェクト」の4つの柱において、目指す児童の姿とそれに向けた具体的な取組を「国西っ子のびのびプラン2025」として設定・公表し、教職員、PTA、地域一丸となって推進する。
    - 児童の特性に応じて活躍する場を設定するとともに主体的に取り組みさせるための指導力の向上を図る。
      - ・ 積極的な情報発信や学校公開により、教育活動の理解促進に努める。
    - 地域学校園各部会の連動・連携した教育実践に取り組み、学校力の向上を図る。
  - ② チーム国西、アットホーム国西の推進
    - 小規模校のよさを生かした教育活動を展開し、すべての児童を全職員で指導する。
      - ・ 「一人はみんなのために みんなは一人のために」を常に意識し、互いを尊重して支え合える職員室の風土を醸成する。
      - ・ 学校としての総合力を高めるために、個々の教職員の経験値や知恵を共有し合い、切磋琢磨しながら指導力の一層の向上を図る。
  - ③ 働き方改革プロジェクトの推進と組織力の向上
    - ・ 勤務時間を意識した働き方（自らの退勤時刻の設定、退勤時刻に向けて業務を精選・効率化する発想の転換、他の教職員の仕事を進んでフォローする同僚性の向上 等）を図る。
    - 校内業務の適正化（業務の洗い出しと可視化、既存システムの活用による学校事務の効率化、積極的な校務分掌の見直し、教職員提案の活用、地域の教育資源の開発と積極的な活用 等）を促進する。
- (2) 学習指導
  - ① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の工夫・改善
    - 児童の全国・県・市の学習状況の結果を的確に分析・把握することにより、個々の学習課題及び学年・学校課題を設定し、「宇都宮モデル」の実践や習熟度別学習による指導、デジタル機器や図書等を活用した授業及び家庭学習の充実を通して、学習内容の確実な理解と定着を図る。

・ 児童が各教科等における見方や考え方を働かせ、課題解決に取り組めるような発問や学習活動を工夫する。

○ 互いの意見を交流し、学び合いながら考えたことを表現し合える学級集団を育成する。

・ 児童が多様な考えに触れ、相互に関連付けたり、共通点や相違点を見いだしたりすることができるよう、教師が事前に児童の活動の様子や言動を想定して授業に臨み、学びの姿を的確に捉えてコーディネートをすることにより、学びを深める支援の充実を図る。

○ 自ら立てた見通しに対する振り返りを文章で書かせる活動を計画的に実施し、学習の成果を次の単元、学年、他教科等の学びや生活の改善につなげていくことのできる「主体的に学習に取り組む態度」を育成する。

○ 生命の有限性や自然の大切さ、主体的に挑戦してみることや多様な他者と協働することの重要性を実感しながら理解することができるよう、各教科等の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域協議会をはじめとした地域や地元企業と連携して、体系的・継続的に実施できるよう工夫する。

・ 言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力の育成を目指し、教科等横断的な視点をもってねらいを具体化したり、各教科における指導との関連付けを図ったりする。

・ 児童が安心して学習を進めながら自己の能力を最大限に発揮できるよう、活動の目的や手順を示したり、児童の長所や経験を生かした追究方法を選択させたりする等、特別支援教育の視点を取り入れ、「困難さに応じた指導」はもとより、「よさを伸ばす指導」の充実を図る。

○ 児童が自分を理解し、管理する力や将来を設計する力を育むための「宮・未来キャリアパスポート」の活用を全校体制で推進する。

・ 各教科等のねらいを踏まえた「リアル」と「デジタル」がベストミックスされた学習活動を実現できるように、「デジタルでリアルな学びを支える」との基本的な考えに立ち、1人1台端末をはじめとしたICT機器を積極的に活用する。そのための研修を充実させ、教員のICT活用指導力の向上を図る。

○ 義務教育9年間を見据えた効果的な学習環境の構築を目指し、高学年を中心に教科担任制を実施して、児童の学力向上及び教員の指導力向上に努める。

## ② 家庭学習の充実

・ 「家庭学習の手引き」を用いた学び方の提示や確認、適切な言葉掛け等により、主体的に取り組めるよう工夫する。

・ 学校全体で共通理解を図りながら、現在学習している内容に関連のあるものや季節等に応じた取組を学年に応じて行うよう支援する。

○ ○ 自分の考えや意見を相手に分かりやすく表現する能力や態度の育成のため、日記や作文の課題を課すとともに、地域学校園で行う「書くことキャンペーン」に積極的に取り組む。

## ③ 読書活動の推進

・ 読書活動を通じた語彙力の強化を図る。

・ 「朝の読書」の時間や読み聞かせボランティア及び教師による読み聞かせの実施により、読書活動の充実を図る。

・ 校内読書月間を実施するとともに家族読書を推奨する。

○ 自主的、自発的な活動としての図書委員による読み聞かせや集会活動を実施することで、読書活動を多様に展開する。

・ 学校図書館司書によるブックトークや校内推薦図書の選定及び紹介、「読書カルテ」の作成・活用等を通して、読書の幅を広げる指導の充実を図る。

・ 学校図書館の「読書センター」、「学習・情報センター」としての利活用及び各教科等の関連図書の充実と活用、学校図書館司書による授業支援の推進を図る。

## (3) 児童生徒指導

### ① 自ら律する力（規範意識・人権・生活習慣と健康保持）の育成

・ あたたかな笑顔と気持ちのよい挨拶が飛び交い、潤いのある学校にするため、全教職員が模範となって、継続的に指導する。

○ きまりやマナーを守り、主体的に行動しようとする規範意識が身に付くよう、ルールや約束等の意義を指導するとともに、児童が自らルールを作り遵守させる場を設定する。

・ 週に1回「宮っ子の誓い」を全校生で唱和して、規範意識や人権尊重の意識の醸成、たくましさの

涵養を図る。

- ・ 継続的な自己評価（チェックシート）や個人内評価により，自ら規律ある生活を実践する態度を育成する。

## ② 豊かな心や望ましい人間関係の育成

- 一人一役の割り当て等，児童が活躍できる場や機会を設定することで，自信や自己有用感を高め，自己実現力を育成する。
- ・ 学校生活における道德教育及びその要となる「道德科」のつながりを工夫する取組を進め，自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道德性を養う。
- 集団的な問題解決活動や，児童相互の認め合い，高め合いが実現できる場の設定，他者と関わる多様な交流活動や体験活動の実践を通して，一人一人のよさが生きる自治的な集団・学級づくりの充実を図る。
- ・ 読み聞かせや家族読書，校内読書月間などの読書活動の推進や活性化をはじめ，芸術・文化作品の鑑賞及び伝統文化体験等の機会を通して，豊かな感性や豊かな心を育む。
- ・ 校内研修を通して全教職員の指導力向上を図るとともに，「いじめ防止基本方針」に則り，いじめの未然防止，早期発見・早期解決に努める。また，Q-Uの結果を学級経営に生かすとともに，年3回実施の教育相談や学校生活についてのアンケートの結果をケース会議等で共有する等，多角的・多面的に児童理解を深め，早期の段階からの組織的・計画的な支援を推進する。
- ・ 道德科の授業やいじめゼロ集会等を通して，児童自らがいじめについて考え，意見を交わし，いじめと向き合うことにより，生命や人権を尊重し，「いじめをしない」「いじめに負けない」「いじめを許さない」という意識の高揚を図るとともに，思いやりや規範意識の醸成を図る。
- ・ 特別な支援を要する児童については，特別支援コーディネーターやSCMを中心に組織的・計画的に支援を行い，かがやきルームと効果的に連携したり，児童の状況に合わせて別室登校支援を行ったり，1人1台端末を有効活用したりする等，支援体制の充実に努める。
- ・ インターネットに起因するいじめやトラブルの未然防止に向け，発達段階に合わせた体系的・継続的な指導を行うとともに，「スマホ・ケータイ宮っ子ルール共同宣言Ver. 2」を活用して家庭の協力を得ながら，児童が主体的に判断して適切にインターネットが使用できるようにする。

## ③ 家庭・地域・関係機関との連携

- ・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を幼保の教職員と共有し，相互理解の深化を図る。
- 地域学校園の小中合同あいさつ運動の実施や地域協議会主催のあいさつ標語コンクールの参加を通して，家庭・地域と一体となり挨拶への意識を高める。
- ・ 全学年で，人との関わりに関する内容項目の道德の授業を，授業参観で一斉に公開し，学級懇談会で保護者との話し合いをもつことで，人権尊重の啓発を図る。
- ・ いじめ防止に関する取組や実態調査，アンケート結果等を，学校，学年，児童指導日より，学校HP，学級懇談会資料等で積極的に公開し，保護者の理解と協力を得るようにする。

## (4) 健康（体力・保健・食育・安全）

学校健康教育推進計画を踏まえ，「体力向上」，「保健教育」，「食育」，「安全教育」の4つの教育を一体的に捉え，デジタルを効果的に活用しながら「元気アップ教育」を着実に推進する。

### ① 健康の管理

- 学習と生活を関連付けた体験的活動（歯の健康教室，薬物乱用防止教室，性教育等）の充実により，学習内容を日常生活に活かすことができる可能性に気付かせ，「自らより健康で安全な生活を創造する力」「自らの命を守るための判断力・行動力」を育成する。
- 「校内歯と口の健康月間」や「校内目の愛護週間（デジタル使用時の安全かつ効果的に活用する習慣や知識の定着）」の設定及び自主的，自発的な活動としての保健委員による啓発活動や集会活動を行い，児童の実践につながる指導に努める。
- ・ 学校保健安全・学校給食委員会を設け，学校医・学校歯科医・学校薬剤師・家庭と連携した指導の充実に努める。
- ・ 定期健康診断結果に基づき，疾病の早期治療や肥満防止のため，個別のライフスタイルを踏まえた健康相談や保健指導の実施，保健だよりの発行による啓発等を通して，健康の保持増進を図る。
- ・ 児童の健康の保持増進を目指し，家庭や専門機関と連携しながら，心の健康に関する教育の充実を図る。

る。

② 食育の推進

- 望ましい食習慣の定着を図るため、食事マナー指導や生産や収穫に関する体験活動、給食関係者（生産者）との交流、地産地消の推進、宇都宮学と関連させた給食の提供等を、食に関する指導の全体指導計画に位置付け、給食の時間や各教科等の食に関する授業において、学校全体で指導に取り組む。
- ・ 「お弁当の日」の実施や保護者の食育、食物アレルギー等の理解を深めるための食育だよりの発行、学級懇談会での情報提供を通し、学校で習得したことが日常生活で実践できるよう、学校と家庭の双方方向における指導の充実を図る。

③ 体力の向上

- ・ 体育科の授業において、低下傾向にある走力や敏捷性を高める運動や「元気っ子健康体力チェック」の結果を踏まえた補強運動に取り組むとともに、体育的行事や業間時の体力づくり等を計画的に位置付けることで、体力の向上を図る。
- ・ 「うつのみや版ミニマム」や「各種検定カード」を活用しながら、児童が体力向上や健康増進に係る目標をもって取り組む活動を重視し、目標の達成に向けた努力を認め励まし、自己肯定感を高められるようにする。
- ・ 「うつのみや元気っ子チャレンジ」や運動委員による集会活動の実施、週1回のロング昼休み（火曜日）を活用した外遊びの奨励等、学級やグループ、個人で楽しみながら運動に挑戦して体力作りに取り組む運動の機会を創出する。
- ・ 日常生活における体力向上を図るため、体育用具・固定施設の整備と効果的な活用をする。

④ 自らの命を守り抜く行動力の育成

- 自らが危険を予測して回避する等、自らの命を守り抜く行動力を育成し、安全な生活を送り、安全な社会づくりに貢献できる資質・能力を身に付けることができるよう、各教科等や日常指導における安全指導の充実に努める。
- ・ 安全点検（毎月1回）、登校時安全指導（年3回）、交通安全教室（年1回）、不審者対応並びに災害を想定した実践的な避難訓練（年4回）の適正な実施に努め、教育活動全体を通して自他の生命を尊重し、健康で安全な生活を営む態度を育成する。
- ・ 交通ルールの遵守や自転車乗用時のヘルメット着用等の日常的な指導の充実と、交通事故や不審者から自他の安全を守るための防犯ブザーの携帯や集団下校の徹底を図る。
- ・ 家庭や地域、関係機関と連携し、通学路の安全点検や下校時の見守り活動等、地域ぐるみの安全体制づくりを推進する。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価												
1- (1) 豊かな学力を育む教育の推進	<p>A 1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 95%以上</p>	<p>① 各教科等における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向け, 端末の日常的な活用と教員のICT活用指導力の向上を図る。</p> <p>② 話の聞き方や発表の仕方を習得できるように指導するとともに, 児童が意見交換したり, 議論したりすることで新たな考えに気付いたり, 自分の考えをより妥当なものとしたりしようとする態度を育成する。</p> <p>③ 児童が多様な考えに触れ, 相互に関連付けたり, 共通点や相違点を見いだしたりすることとおして, 児童の思考や表現が広がったり深まったりするよう教師のコーディネート力の向上を図る。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>◇児童の肯定的回答</td> <td>93.2%⇒90.7%</td> <td>-2.5</td> </tr> <tr> <td>◇保護者の肯定的回答</td> <td>95.8%⇒91.3%</td> <td>-4.5</td> </tr> <tr> <td>◇教職員の肯定的回答</td> <td>100%⇒100%</td> <td>±0.0</td> </tr> </table> <p>・①については, 全教職員が, 教材研究と授業力向上に取り組み, 日々の授業では学習課題及び提示の仕方を工夫して児童の興味・関心が高まるように努めた。</p> <p>・②については, 児童の思いや考えを伝え合うことができるように工夫した。多くの児童を参加させる対話の展開の工夫をした。</p> <p>・③については, 発問の工夫や児童の発言を吟味して, それを他の児童に広げるような授業を展開するように努力した。また, 一人一台端末を活用した学習活動の充実を図り, 見通しを立てたり学習状況を把握して取り組んだりするよう努めた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・①については, 今後とも, 主体的・対話的で深い学びの実現に向け, 教材研究と授業研究に取り組み, 工夫した授業展開を行っていくように努める。</p> <p>・②については, 発達段階に合わせた話合いのこつを提示し, 話の聞き方や話し方の約束を身に付けさせるとともに, クラス全体での話合いが活発化するように工夫していくようにする。分からないことを分からないと言える環境を作り, 心理的安全性を確保する。</p> <p>・③については, 引き続き, 子供の考えをつなげるための発問や授業展開について教師が教材研究を進めていく。一人一台端末を活用した学習活動の充実を図り, 児童の思考や表現が広がったり深まったりするよう授業展開を工夫していく。</p>	◇児童の肯定的回答	93.2%⇒90.7%	-2.5	◇保護者の肯定的回答	95.8%⇒91.3%	-4.5	◇教職員の肯定的回答	100%⇒100%	±0.0			
◇児童の肯定的回答	93.2%⇒90.7%	-2.5														
◇保護者の肯定的回答	95.8%⇒91.3%	-4.5														
◇教職員の肯定的回答	100%⇒100%	±0.0														
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	<p>A 2 児童は, 思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は, 思いやりの心をもっている。」⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 95%以上</p>	<p>① 「元氣よく, かしこく, 仲よく, たくましく」のうち, 「仲よく」については, 学級経営において認め合う場を位置付けたり, 学校行事や児童会活動, 縦割り班活動, 異学年交流活動の場を数多く設けたりし, 他を思いやり, 友達に優しくする心, 互いを認め合う気持ちの育成や自己有用感の高揚を図り, 潤いのある学校づくりを推進する。また, 地域や家庭にこれらの活動で児童に思いやりの心が育てられていることを周知する。</p> <p>② 読書啓発活動や家族読書の推進, 音楽鑑賞会やふれあい文化教室の機会を通して, 豊かな感性や心を育む。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>◇児童の肯定的回答</td> <td>93.2%⇒92.6%</td> <td>-0.6</td> </tr> <tr> <td>◇保護者の肯定的回答</td> <td>88.5%⇒76.0%</td> <td>-12.5</td> </tr> <tr> <td>◇教職員の肯定的回答</td> <td>94.1%⇒94.1%</td> <td>±0.0</td> </tr> <tr> <td>◇地域住民の肯定的回答</td> <td>100%⇒100%</td> <td>±0.0</td> </tr> </table> <p>・①については, 学校行事や児童会活動, 縦割り班活動, 異学年交流活動の場を数多く設け, 他を思いやり, 友達に優しくする心, 互いを認め合う気持ちの育成や自己有用感の高揚を図った。また, 各学級において帰りの会で友達の良さを紹介し合う活動を行った。行った活動は, 学校ホームページや各種便りで周知した。</p> <p>・②については, 読書活動や文化的活動を通して, 豊かな感性や心を育むよう努めた。</p> <p>・③については, 人権教育についての指導案検討会や職員研修の機会を設け, 学校全体で計画的・系統的に人権感覚・人権意識の高</p>	◇児童の肯定的回答	93.2%⇒92.6%	-0.6	◇保護者の肯定的回答	88.5%⇒76.0%	-12.5	◇教職員の肯定的回答	94.1%⇒94.1%	±0.0	◇地域住民の肯定的回答	100%⇒100%	±0.0
◇児童の肯定的回答	93.2%⇒92.6%	-0.6														
◇保護者の肯定的回答	88.5%⇒76.0%	-12.5														
◇教職員の肯定的回答	94.1%⇒94.1%	±0.0														
◇地域住民の肯定的回答	100%⇒100%	±0.0														

		<p>③ 道徳科の授業や日々の道徳性の育成を人権教育の核として、計画的・系統的に人権感覚・人権意識の高揚を図る。</p>	<p>揚を図った。</p> <p><b>【次年度の方針】</b></p> <p>①については、「元気よく、かしこく、仲よく、たくましく」の「仲よく」を合言葉として意識づけを推進する。学級経営において認め合う場を意図的に設定し、友達の良さを紹介し合うなど、日常的に他を思いやり、友達に優しくする心の育成を図る。今後も学校行事や縦割り班活動等、異学年交流活動の場を、年間を通じて数多く設け、互いを認め合う気持ちや思いやりの心の育成を図る。</p> <p>・②については、引き続き、効果的な読書活動を進めるため、読書環境を整えたり、家庭との連携を図ったりしていく。</p> <p>・③については、道徳科の授業を通して、価値観の多様性や自己理解の深化を図るよう努め、道徳の実践力を高められるようにしていく。</p>												
<p>A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p><b>【数値指標】</b> 児童・保護者・教職員の肯定的回答 96%以上</p>	<p>① 様々な場面で「元気よく かしこく 仲よく たくましく」を声掛けするとともに、特に、学習において、学習のねらいや、個のつまずきに応じた学習活動の充実や学力向上担当教員との綿密な連携を図る。</p> <p>② 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を意図的に設けるとともに、担任だけでなく全職員で認め励ます指導に努める。</p> <p>③ 粘り強く取り組もうとする心を育成できるように学校行事や児童会活動、縦割り班活動などの実施方法を工夫し、児童が自ら粘り強く取り組んでいることを実感できるように支援する。</p> <p>④ 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、自己を見つめ、自己のよさを生かした夢の実現に向けて、主体的に取り組む児童の育成を図る。また、第6学年の総合的な学習の時間における「夢探しの旅に」の単元構成を工夫し、地域人材を活用してキャリアプランニング能力の素地を培う。</p>	<p>① 様々な場面で「元気よく かしこく 仲よく たくましく」を声掛けするとともに、特に、学習において、学習のねらいや、個のつまずきに応じた学習活動の充実や学力向上担当教員との綿密な連携を図る。</p> <p>② 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を意図的に設けるとともに、担任だけでなく全職員で認め励ます指導に努める。</p> <p>③ 粘り強く取り組もうとする心を育成できるように学校行事や児童会活動、縦割り班活動などの実施方法を工夫し、児童が自ら粘り強く取り組んでいることを実感できるように支援する。</p> <p>④ 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、自己を見つめ、自己のよさを生かした夢の実現に向けて、主体的に取り組む児童の育成を図る。また、第6学年の総合的な学習の時間における「夢探しの旅に」の単元構成を工夫し、地域人材を活用してキャリアプランニング能力の素地を培う。</p>	<p><b>【達成状況】</b></p> <table border="1"> <tr> <td>◇児童の肯定的回答</td> <td>91.5%⇒94.4%</td> <td>↑</td> <td>+2.9</td> </tr> <tr> <td>◇保護者の肯定的回答</td> <td>84.6%⇒80.0%</td> <td>↓</td> <td>-4.6</td> </tr> <tr> <td>◇教職員の肯定的回答</td> <td>100%⇒100%</td> <td></td> <td>±0.0</td> </tr> </table> <p>・①については、学習面において目標をもってあきらめず取り組もうとする意欲や自分から進んで取り組もうとする意欲に欠ける姿が見られた。</p> <p>・②については学級経営において認め合う場を意図的に設定し、友達のよさを紹介し合うなど、日常的に他を思いやり、友達に優しくする心の育成を図った。</p> <p>・③については学校行事や縦割り班活動等、異学年交流活動の場を、年間を通じて数多く設け、児童が主体的に考え、取り組むことができる活動を取り入れた。互いを認め合う気持ちや思いやりの心の育成を図った。</p> <p>・④については、年間指導計画に基づき、キャリアパスポートを生かしながら、自分の夢や将来について考える機会を適宜もつようにさせた。</p> <p><b>【次年度の方針】</b></p> <p>・①については、今後、様々な場面で「元気よく かしこく 仲よく たくましく」を声掛けするとともに、特に学習面においてあきらめずに自分から進んで取り組めるよう、それぞれにあった課題を提示したり励ましたりする。また、粘り強い取り組みができた児童を認め励ます指導を行っていく。</p> <p>・②については、次年度も引き続き、学級経営において認め合う場を意図的に設定するとともに、全職員で認め励ます指導に努める。</p> <p>・③については、次年度も高学年を中心に児童が主体的に考え、取り組むことができる活動を積極的に取り入れる。</p> <p>・④については、キャリアパスポートを生かしながら自分の将来についてしっかりと考えられるように指導していく。</p>	◇児童の肯定的回答	91.5%⇒94.4%	↑	+2.9	◇保護者の肯定的回答	84.6%⇒80.0%	↓	-4.6	◇教職員の肯定的回答	100%⇒100%		±0.0
◇児童の肯定的回答	91.5%⇒94.4%	↑	+2.9												
◇保護者の肯定的回答	84.6%⇒80.0%	↓	-4.6												
◇教職員の肯定的回答	100%⇒100%		±0.0												

<p>1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 児童・保護者・教職員の肯定的回答 95%以上</p>	<p>① 保健だよりや健康診断結果、健康票により、家庭への周知をすることで健康な生活に関する啓蒙をしたり、低・中・高での共通の検定表の活用を進め、自らの体力に気付かせたりすることで、健康増進への関心・意欲を高める。</p> <p>② 児童自らが危険を予測し回避するなど、自らの命を守り抜く行動力を育成するため、登下校の安全確保や避難訓練、健康・安全への出前授業を、家庭や関係機関等と連携し実施する。また、第4回避難訓練において事前の予告なしでの訓練を実施することにより、実践的な危機回避能力を身に付けられるようにする。</p> <p>③ 学校給食と各教科等との関連を図った指導の下、食事の重要性、正しい食事のマナーの定着や食習慣の改善、望ましい人間関係の育成を目指した食育の推進を図る。また、年2回校内給食マナー週間を設け、振り返りカードを活用し、家庭に啓発する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>◇児童の肯定的回答</td> <td>98.3%⇒98.1%↓</td> <td>-0.2</td> </tr> <tr> <td>◇保護者の肯定的回答</td> <td>84.6%⇒92.0%↑</td> <td>+7.4</td> </tr> <tr> <td>◇教職員の肯定的回答</td> <td>100%⇒100%</td> <td>±0.0</td> </tr> <tr> <td>◇地域住民の肯定的回答</td> <td>100%⇒100%</td> <td>±0.0</td> </tr> </table> <p>B</p> <p>・①については、保健だよりや健康診断結果による家庭への周知、保健委員会の取組により児童の健康への関心を高められた。また、体育的行事に合わせて検定表やがんばりカードを活用したり、元気っ子チャレンジへの参加等で、児童の運動への関心・意欲を高めたりした。縄跳びジャンプ台の設置など、運動環境を整備して体力向上に向けての意識を高めた。</p> <p>・②については、学校教育活動全体を通して、児童自らが危険を予測し、回避するなど、自らの命を守り抜く行動力の育成を図った。</p> <p>・③については、「食育だより」や、給食マナー週間を活用し、児童に望ましい食習慣やマナーを身につけさせる機会を設けた。また、特別活動との関連も図り「お話給食」や「行事献立」などを実施して、食に関する興味・関心を高めた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・①については、体力向上への意欲が継続するよう、健康や体力についての記録を児童に知らせ、自分の成長に気付かせるようにする。また、健康に関するお知らせや健康に役立つ情報などについて、保健だより等で保護者への啓発に努める。</p> <p>・②については、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施するとともに、体育や日常の指導における安全指導の充実に努める。また、避難訓練のうち1回は、事前の予告なしでの訓練を実施することを通して、実践的な力を養う。</p> <p>・③については、これからも望ましい食習慣やマナーが身につけられるよう、ランチルームや教室での給食指導を継続実施していく。給食週間に合わせたマナーががんばりカードを活用した振り返りを実施し、その結果を家庭に知らせるとともに、家庭への啓発に努める。</p>	◇児童の肯定的回答	98.3%⇒98.1%↓	-0.2	◇保護者の肯定的回答	84.6%⇒92.0%↑	+7.4	◇教職員の肯定的回答	100%⇒100%	±0.0	◇地域住民の肯定的回答	100%⇒100%	±0.0
◇児童の肯定的回答	98.3%⇒98.1%↓	-0.2													
◇保護者の肯定的回答	84.6%⇒92.0%↑	+7.4													
◇教職員の肯定的回答	100%⇒100%	±0.0													
◇地域住民の肯定的回答	100%⇒100%	±0.0													
<p>1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 95%以上</p>	<p>① 「行動のふりかえりシート」を基に、自分の学校生活や行動を振り返るとともに、発達段階に応じて目指す姿を確認させる。</p> <p>② 児童が自信や自己肯定感を高められるよう、主に特別活動において一人一役の割り当てをし、一人一人の児童が活躍できる場や活動を振り返る機会を設定する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>◇児童の肯定的回答</td> <td>93.2%⇒94.4%↑</td> <td>+1.2</td> </tr> <tr> <td>◇教職員の肯定的回答</td> <td>100%⇒88.2%↓</td> <td>-11.8</td> </tr> </table> <p>B</p> <p>・①については、「行動のふりかえりシート」をもとに定期的に日々の振り返りをしたことで、きまりやマナーを意識して生活できるようになり、発達段階における目指す姿を確認できた。</p> <p>・②については、さまざまな児童会活動において一人一役の割り当てを、一人一人の児</p>	◇児童の肯定的回答	93.2%⇒94.4%↑	+1.2	◇教職員の肯定的回答	100%⇒88.2%↓	-11.8						
◇児童の肯定的回答	93.2%⇒94.4%↑	+1.2													
◇教職員の肯定的回答	100%⇒88.2%↓	-11.8													

		<p>③ 全校児童による遠足や学校農園での学習活動等の多様な体験活動を通して、思いやりの心や責任感、助け合い協力し合おうとする態度の育成を図る。</p>	<p>児童が活躍できる場や機会を意図的に設定するよう意識した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・③については、多様な体験活動を通して、思いやりの心や責任感、助け合い協力し合おうとする態度の育成を図った。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・①については、引き続き「行動のふりかえりシート」をもとに発達段階における目指す姿を確認、きまりやマナーを意識して生活できるようにする。</li> <li>・②については、児童が自信や自己肯定感を高められるよう、特別活動において一人一役の割り当てをし、一人一人の児童が活躍できる場や機会を設ける。</li> <li>・③については、引き続き、多様な体験活動を通して自己肯定感や協調性を高めるようにする。</li> </ul>												
<p>2-(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① ALTの効果的な活用を図るとともに朝のESタイムや英語集会などを通して全学年で英語に慣れ親しむ活動に取り組み、コミュニケーション力の育成を図る。</p> <p>② 外国語科担当者を中心にALTを交えて職員研修を実施するなど、外国語科の授業における指導力の向上を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>◇児童の肯定的回答</td> <td>91.5%⇒92.6%</td> <td>↑</td> <td>+1.1</td> </tr> <tr> <td>◇教職員の肯定的回答</td> <td>100%⇒100%</td> <td></td> <td>±0.0</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・①については、朝のESタイムを通して、英語に慣れ親しむことができた。英語集会を実施し、ALTと外国語の学習を行った。</li> <li>・②については、今年度は、英語集会の公開を実施し教科担任制を実施したことで、次年度も活用できる教材の開発などができた。校内研修による学習指導の方法をもとに、日常的な授業研究において、効果的な教材・教具の取り扱いなどについて、教員間やALTとの情報交換などを行った。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・①については、授業を中心として、ESタイムのさらなる充実や英語集会の工夫改善を行っていく。</li> <li>・②については、外国語担当者を中心にALTを交えて職員研修や教材研究を行い、研鑽を深めながら、外国語の授業についての指導力を高めていくようにする。</li> </ul>	◇児童の肯定的回答	91.5%⇒92.6%	↑	+1.1	◇教職員の肯定的回答	100%⇒100%		±0.0				
◇児童の肯定的回答	91.5%⇒92.6%	↑	+1.1												
◇教職員の肯定的回答	100%⇒100%		±0.0												
	<p>A7 児童は、宇都宮のよさを知っている。</p> <p>【数値指標】 児童・保護者・教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 生活科、社会科、総合的な学習の時間等の授業において、宇都宮の文化や特産物を調べたり宇都宮と他の地域を比較したりするなどの学習を通して、身近な地域や宇都宮のよさに気付くことができるようにする。活動の様子を、各種たより、ホームページ等で周知する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>◇児童の肯定的回答</td> <td>94.9%⇒94.4%</td> <td>↓</td> <td>-0.5</td> </tr> <tr> <td>◇保護者の肯定的回答</td> <td>80.0%⇒70.8%</td> <td>↓</td> <td>-9.2</td> </tr> <tr> <td>◇教職員の肯定的回答</td> <td>88.2%⇒94.1%</td> <td>↑</td> <td>+5.9</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・①については、生活科では校外学習に出かけ、地域の生物や自然について調べた。また、3、4年の社会科、総合的な学習においては、地域の伝統文化である宗円獅子舞や</li> </ul>	◇児童の肯定的回答	94.9%⇒94.4%	↓	-0.5	◇保護者の肯定的回答	80.0%⇒70.8%	↓	-9.2	◇教職員の肯定的回答	88.2%⇒94.1%	↑	+5.9
◇児童の肯定的回答	94.9%⇒94.4%	↓	-0.5												
◇保護者の肯定的回答	80.0%⇒70.8%	↓	-9.2												
◇教職員の肯定的回答	88.2%⇒94.1%	↑	+5.9												

		<p>② 国西プロジェクト（地域に学ぶ）の充実を図り、地域人材を活用した年間サイクルを実施することで「ふるさとの自然や文化」に誇りを持ち、未来を創る力を育成する。活動の様子を、各種たより、ホームページ等で周知する。</p>	<p>地域の文化財などについて学び、宇都宮の良さを知ることができた。</p> <p>・②については、総合的な学習の時間において、宗円獅子舞をテーマに学習した。実際に獅子舞を演舞するなど、体験的な活動を重視した学習を実施した。特に、宗円獅子舞が地域の人々のきずなや努力によって長く引き継がれてきたものであることを知る事ができた。また、くにもとまつりに参加し、国本地区の伝統文化を発信し、自分達の住む地域を大切にす郷土愛も養うことができた。</p> <p><b>【次年度の方針】</b></p> <p>・①については、地域のよさを知ることを生活科や社会科、総合的な学習の時間の学習を通して深めていくようにする。学習の様子を、学年だよりや学校ホームページにより周知する。</p> <p>・②については、総合的な学習の中で継続し、郷土愛を育んでいく。</p>									
<p>2-（2） 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進</p>	<p>A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。</p> <p><b>【数値指標】</b> 児童・保護者・教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 各教科、総合的な学習の時間等において、学習内容や目的に応じてデジタル機器や図書資料を適切に活用できるよう、学校司書と連携して指導していくことで、内容の理解を深められるようにする。</p> <p>② 授業内容に関連させて図書室を学習・情報センターとして活用できるよう、図書資料の充実を図るとともに、学習の成果の発表の場ともなるよう環境整備を図る。</p> <p>③ 朝の読書やボランティアによる読み聞かせ、読書カルテ・読書ファイルの活用、図書館だよりの発行などにより、児童の読書意欲の喚起を図る。</p>	<p><b>【達成状況】</b></p> <table border="1"> <tr> <td>◇児童の肯定的回答</td> <td>96.6%⇒98.1%↑</td> <td>+1.5</td> </tr> <tr> <td>◇保護者の肯定的回答</td> <td>92.0%⇒68.0%↓</td> <td>-24.0</td> </tr> <tr> <td>◇教職員の肯定的回答</td> <td>100%⇒100%</td> <td>±0.0</td> </tr> </table> <p>・①については、担任や図書館司書が連携して、学習を進めたことにより、学習内容や目的に応じて ICT や図書資料を適切に活用する力がついてきた。また、小学生新聞を管理・周知し調べ学習に役立てた。</p> <p>・②については、図書室を学習・情報センターとして活用していけるように、授業内容と関連させながら図書利用を進めた。また、国語の授業で作った資料なども展示して全校児童の目に触れるように工夫した。</p> <p>・③については、おすすめ本のコーナーなどを設けたり、読書ファイルの活用などを積極的にいたりした。また、家族読書の推進も図った。</p> <p><b>【次年度の方針】</b></p> <p>・①については、調べ学習の方法やメディアリテラシーについて指導をするとともに、学習内容や目的に応じて ICT や図書資料を適切に活用できるよう、学校司書と連携して指導していく。また、小学生新聞を活用することで、多角的な視点や思考力を育む。</p> <p>・②については、図書室を学習・情報センターとして活用できるよう、図書資料の充実を図るとともに、学習の成果の発表の場ともなるよう環境整備をしていく。</p> <p>・③については、引き続き、学年別必読書や家族読書の推進を図るとともに、児童や教師によるおすすめ本の紹介を行っていく。学期間休業前に、読書ファイルを家庭に持ち帰り、読書活動を周知する。</p>	◇児童の肯定的回答	96.6%⇒98.1%↑	+1.5	◇保護者の肯定的回答	92.0%⇒68.0%↓	-24.0	◇教職員の肯定的回答	100%⇒100%	±0.0
◇児童の肯定的回答	96.6%⇒98.1%↑	+1.5										
◇保護者の肯定的回答	92.0%⇒68.0%↓	-24.0										
◇教職員の肯定的回答	100%⇒100%	±0.0										
<p>2-（3） 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進</p>	<p>A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p><b>【数値指標】</b> 児童・教職員の肯定的回答</p>	<p>① 各教科、総合的な学習の時間等において、身近な環境問題や防災など、社会的関心の高い話題を取り上げ、環境と調和しながら生活する意欲や態度を育成する。</p>	<p><b>【達成状況】</b></p> <table border="1"> <tr> <td>◇児童の肯定的回答</td> <td>93.2%⇒98.1%↑</td> <td>+4.9</td> </tr> <tr> <td>◇教職員の肯定的回答</td> <td>76.5%⇒82.4%↑</td> <td>+5.9</td> </tr> </table> <p>・①については、各教科、総合的な学習を通して、環境や防災についての問題に気付き</p>	◇児童の肯定的回答	93.2%⇒98.1%↑	+4.9	◇教職員の肯定的回答	76.5%⇒82.4%↑	+5.9			
◇児童の肯定的回答	93.2%⇒98.1%↑	+4.9										
◇教職員の肯定的回答	76.5%⇒82.4%↑	+5.9										

	90%以上	② 教職員の「持続可能な社会」への認識を高め、全教育活動において、命あるものを大切にすることを育み、児童の「持続可能な社会」への実践力を養う。	自分たちがどうしていったらいいか具体的な取り組みについて考えをもつことができた。 ・②については、様々な場面で啓発活動を行い、リサイクルしたり、ポスターを掲示したりするなどして、「持続可能な社会」についての意識を高めた。 【次年度の方針】 ・①については、引き続き、発達の段階に応じて日々取り組んでいくとともに、SDGsと関連させながら、「持続可能な社会」について、各教科等の学習において関連する内容を学習していく。 ・②については、リサイクルや節電を実践し、達成感を味わえるよう取り組むことで児童の「持続可能な社会」への意識を高めていく。
3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。  【数値指標】 教職員の肯定的回答 95%以上	① 特別な支援を必要とする児童のための指導・支援体制の整備を図りながら、児童一人一人の教育的ニーズを踏まえた適切な教育的支援に努める。また、かがやきルームと効果的に連携したり、児童の状況に合わせて別室登校支援を行ったり、端末を有効活用したりする等、支援体制の充実に努める。  ② 特別支援コーディネーターを中心としたケース会議を必要に応じて開催したり、ICF実態シート並びに個別の支援計画を作成したりするなど支援体制の強化を図る。また、SCや関係機関との密接な連携を図ったりしながら、全職員で組織的な対応を行っていく。	【達成状況】 ◇教職員の肯定的回答 100%⇒100% ±0.0 ・①については、校内児童指導対策委員会を開き、事案について話し合い、それをもとに各担当が適切な指導を行った。 ・②については、個別支援計画を基に、かがやきルームを効果的に活用したり、SCや関係機関との密接な連携を図ったりしながら、全職員で組織的な対応ができた。 【次年度の方針】 ①については、今後も特別な支援を必要とする児童への対応に関する状況の把握を進め、校内児童対策委員会を中心として、適切な支援の在り方について検討を進めるとともに、かがやきルーム指導員や関係機関との連携を密に図りながら、児童一人一人の教育的ニーズにこたえていく。 ②については、年度当初に特別な支援を要する児童について、個別支援計画を作成し、適宜ケース会議を開き、かがやきルームを有効活用したり、SCや関係機関との密接な連携を図ったりしながら、全職員で組織的な対応を行っていく。
3- (2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。  【数値指標】 児童・保護者・教職員・地域住民の肯定的回答 95%以上	① いじめは絶対に許されない行為であることを、道徳の時間や学級活動などを通して継続的に指導し、人権に配慮した学級づくりを心がけていくことにより、「いじめはしない」「いじめに負けない」「いじめを許さない」という児童の意識化を図る。また、本校の取組を学校だよりや学年だより、児童指導だより等で紹介したりホームページに掲載したりするなどして保護者や地域に啓発を行う。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答 96.6%⇒100% ↑ +3.4 ◇保護者の肯定的回答 75.0%⇒45.5% ↓ -29.5 ◇教職員の肯定的回答 100%⇒100% ±0.0 ◇地域住民の肯定的回答 92.3%⇒92.3% ±0.0 ・①については、教育活動全体で継続的に指導し、教育相談を活用しながら人権に配慮した学級づくりに努めた。特に、いじめゼロ強化月間では、運営委員会が中心となり取組を考えるなど児童の主体性を強化した。また、いじめに関する本校の取組をホームページに掲載したりすることで、保護者や

		<p>② 学校いじめ防止基本方針に基づき、Q-Uや年3回の教育相談、学校生活についてのアンケート、ケース会議の実施等、いじめの未然防止・早期発見につながる日常的な取組を推進する。緊急時にはいじめ対策委員会を実施し、迅速かつ組織的な対応を行う。また、「いじめゼロ強化月間」を設け、児童主体のいじめゼロ集会等を通して、児童の意識の高揚を図るとともに、児童に寄り添ったきめ細かな学級経営に取り組み、安心して過ごせる学校づくりを推進する。</p>	<p>地域への啓発を行った。</p> <p>・②については、Q-Uや教育相談、学校生活についてアンケートなどを実施するとともにいじめゼロ月間を設け、児童の実態把握を行い、いじめの未然防止・早期発見に努めた。また、毎月、児童の様子について情報交換を行なったほか、日頃からの共通理解も進めるなど、組織的に対応できる体制を維持した。</p> <p><b>【次年度の方針】</b></p> <p>・①については、今後も、道徳の授業や教育相談を充実させながら、いじめ根絶に向けて指導していく。さらに、学校だよりや学年だより、校内掲示等を通して、いじめ根絶に向けた学校の取組を発信していく。また、さくら連絡網で各種便りを添付しても、ファイルを開かずに、学校での取組を把握できない保護者もいることが考えられるため、さくら連絡網のメッセージの表題に取組を直接記入し、メッセージを開かなくても学校の取組を把握できるようにする。</p> <p>・5月と9月のいじめゼロ強化週間時の一斉下校では、いじめ防止スローガン「いじめは、しない・まけない・ゆるさない」を唱和する。</p> <p>・②については、Q-Uや教育相談を活用するのはもとより、日頃から児童の話をよく聞き、必要に応じて、早急に真摯に応じていく。また、学校全体で情報を共有した上で、校内児童指導対策委員会を中心に、いじめの未然防止に向けた取組を充実させる。教育相談については、一人一人の児童とじっくり話ができるようにする。</p>									
<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p><b>【数値指標】</b> 児童・保護者・教職員の肯定的回答 95%以上</p>		<p>① 家庭訪問、個人懇談、学級懇談等による保護者との連携やアンケート調査、Q-U検査、教育相談等の結果の分析と活用による不適応傾向や不登校の兆候や傾向のある児童の早期発見に努める。また、ほめて育てることを意識した指導や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることで児童の自己肯定感を高め、居がいのある学級づくりに努める。</p>	<p><b>【達成状況】</b></p> <table border="1"> <tr> <td>◇児童の肯定的回答</td> <td>93.2%⇒100%↑</td> <td>+6.8</td> </tr> <tr> <td>◇保護者の肯定的回答</td> <td>80.0%⇒58.3%↓</td> <td>-21.7</td> </tr> <tr> <td>◇教職員の肯定的回答</td> <td>100%⇒100%</td> <td>±0.0</td> </tr> </table> <p>・①については、あらゆる教育活動を通して児童理解に努めた。特に、個人懇談、学級懇談、教育相談、Q-U検査、アンケート調査等を通して情報収集・共有が図れた。さらに、事例研修で共通理解を深め、不登校予防に役立てた。</p> <p>・②については、毎月の職員会議後に児童の様子に関する情報交換を行った。必要に応</p>	◇児童の肯定的回答	93.2%⇒100%↑	+6.8	◇保護者の肯定的回答	80.0%⇒58.3%↓	-21.7	◇教職員の肯定的回答	100%⇒100%	±0.0
◇児童の肯定的回答	93.2%⇒100%↑	+6.8										
◇保護者の肯定的回答	80.0%⇒58.3%↓	-21.7										
◇教職員の肯定的回答	100%⇒100%	±0.0										

		<p>② 職員会議や職員打合せで児童の様子について情報交換(ケース会議を含む)を行い、必要に応じて外部機関と連携・協力しながら、全教職員で指導にあたる。</p>	<p>じてケース会議を行い、校長のリーダーシップのもと迅速に組織的な対応ができた。また、特別支援コーディネーターを中心にSCによる教育相談を活用するなど外部機関と連携・協力できた。</p> <p><b>【次年度の方針】</b></p> <p>・①については、これからも、児童と積極的に触れ合い、その中から、様々な情報を得て、児童の悩みに気付いていくようにするなど、児童理解の積み重ねを工夫する。また、ほめて育てることを意識した指導で児童の自己肯定感を高め、居がいのある学級づくりに努める。A11同様、さくら連絡網のメッセージの表題に取組を直接記入し、メッセージを開かなくても学校の取組を把握できるようにする。</p> <p>・②については、今後も情報交換を毎月行うなど、共通理解を進め、学校体制で不登校の予防に努める。また、特別支援コーディネーターを中心として、SCによる教育相談を活用できる体制を整え、その周知も図っていく。児童指導に関する研修の様子を、児童指導だよりや学校ホームページにより周知する。</p>												
<p>3-(3) 外国人児童生徒等への 適応支援の 充実</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p>	<p>① 児童がお互いのよさや違いを尊重し合うことにより、一人一人の自己肯定感を高められるよう、帰りの会などで児童相互に認め合う場を設けたり、担任が認め励ます指導に努めたりする。</p>	<p><b>【達成状況】</b></p> <table border="1"> <tr> <td>◇児童の肯定的回答</td> <td>94.9%⇒100%↑</td> <td>+5.1</td> </tr> <tr> <td>◇保護者の肯定的回答</td> <td>80.0%⇒64.0%↓</td> <td>-16.0</td> </tr> <tr> <td>◇教職員の肯定的回答</td> <td>100%⇒100%</td> <td>±0.0</td> </tr> <tr> <td>◇地域住民の肯定的回答</td> <td>100%⇒100%</td> <td>±0.0</td> </tr> </table>	◇児童の肯定的回答	94.9%⇒100%↑	+5.1	◇保護者の肯定的回答	80.0%⇒64.0%↓	-16.0	◇教職員の肯定的回答	100%⇒100%	±0.0	◇地域住民の肯定的回答	100%⇒100%	±0.0
◇児童の肯定的回答	94.9%⇒100%↑	+5.1													
◇保護者の肯定的回答	80.0%⇒64.0%↓	-16.0													
◇教職員の肯定的回答	100%⇒100%	±0.0													
◇地域住民の肯定的回答	100%⇒100%	±0.0													
<p>3-(4) 多様な教育的 ニーズへの 対応の強化</p>	<p><b>【数値指標】</b> 児童・保護者・地域住民・教職員の肯定的回答 95%以上</p>	<p>② 教育相談や児童理解のためのアンケートをそれぞれ年3回実施し、児童の実態把握を行うとともに、状況に応じて児童の不安等の解消に向けた組織的対応を行う。</p>	<p>B</p> <p>・①については、各学級において帰りの会や学級活動等で友達のよさを発表する場を、1年を通じて設けた。</p> <p>・②については、教育相談を実施し児童の実態把握を行い、いじめの未然防止・早期発見に努めた。また、毎月、児童の様子について情報交換を行なったほか、日頃からの共通理解も進めるなど、組織的に対応できる体制を維持した。</p>												
		<p>③ 児童が安心して楽しい学校生活を送れるよう、児童一人一人の特性やよさを的確に把握するとともに、話をよく聞き、声を掛けよさを認め伸ばす指導を、全教職員で繰り返し行う。</p>	<p>B</p> <p>・③については、教職員が日々の生活の中で積極的に児童と向き合うことにより、児童一人ひとりの特性を把握し、成長・良さを見つけ、ほめる機会を増やした。</p> <p><b>【次年度の方針】</b></p> <p>・①については、一人一人の自己肯定感を高められるよう、帰りの会などで児童相互に認め合う場を設け、担任が認め励ます指導を引き続き行う。</p> <p>・②については、教育相談や児童理解のためのアンケートをそれぞれ実施し、児童の実態把握を行うとともに、状況に応じて児童の不安等の解消に向けた組織的対応を行う。</p> <p>・③については、児童の話をよく聞き、全職員で日頃から常に声をかけ、良さを認め伸ばす指導を今後も繰り返し行い、児童一人一人の特性や良さを的確に把握していく。</p>												

<p>4- (1) 教職員の資質・能力の向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 児童・保護者の肯定的回答 93%以上</p>	<p>① 各教科等において、基礎的・基本的な知識や技能が確実に定着するように板書や教材・教具を工夫したり、ICTや一人一台端末を効果的に活用したりするとともに、学習形態を工夫して分かる授業を実践する。</p> <p>② 学校課題の研究を推進し、授業をお互いに見せ合い、校内研修・研究等を活性化する等、互いに切磋琢磨しながら同僚性を高めるとともに、教職員の授業力向上に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>◇児童の肯定的回答</td> <td>98.3%⇒100%↑</td> <td>+1.7</td> </tr> <tr> <td>◇保護者の肯定的回答</td> <td>82.6%⇒72.7%↓</td> <td>-9.9</td> </tr> <tr> <td>◇教職員の肯定的回答</td> <td>100%⇒100%</td> <td>±0.0</td> </tr> </table> <p>B</p> <p>・①については、一人一人のつまづきに応じて支援を行うようにし、的確な見取りと適切な指導支援を行い、基礎基本の定着に努めた。また、教材・教具やICTを積極的に活用していた。</p> <p>・②については、学校課題をもとに校内研修に取り組み、授業のアイデアをお互いに出し合っ、授業力の向上に取り組んだ。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・①については、分かる授業の実現のため、構造的な板書の工夫や教材・教具の開発、ICTの活用などに取り組んでいく。自分の考えを表現する活動（アウトプット）の充実を図る。</p> <p>・②については、各教科等における資質・能力を育む授業について、研究時間や日常的に教員同士が互いに学び合う授業公開の機会を確保し、協働的に学ぶ組織を構築しながら、全教職員で指導力の向上に取り組む。</p>	◇児童の肯定的回答	98.3%⇒100%↑	+1.7	◇保護者の肯定的回答	82.6%⇒72.7%↓	-9.9	◇教職員の肯定的回答	100%⇒100%	±0.0
◇児童の肯定的回答	98.3%⇒100%↑	+1.7										
◇保護者の肯定的回答	82.6%⇒72.7%↓	-9.9										
◇教職員の肯定的回答	100%⇒100%	±0.0										
<p>4- (2) チーム力の向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 全職員が学校経営方針や学校課題について理解し、それぞれの役割を果たしながら、協働的に取り組むことにより、教育目標の達成を目指す。</p> <p>② 職員室においても、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」を実践し、互いを尊重して支え合える雰囲気醸成する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>◇教職員の肯定的回答</td> <td>94.1%⇒100%↑</td> <td>+5.9</td> </tr> </table> <p>B</p> <p>・①については、年度当初の職員会議で示された学校経営方針に基づき、教育目標の達成を目指して、全教職員で協力して、学習指導、児童指導、学校行事等の全ての教育活動に取り組むことができた。</p> <p>・②については、小規模校であることから一人当たりの業務量が多い中、運動会や収穫祭などの大きな行事の際には、担当者以外の職員も進んで協力し、全校体制で取り組むことができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・①については、学校経営方針について共通理解を図り、心身ともに健全で、自ら考え正しく行動し、心豊かでねばり強い児童の育成を目指し、今後も全教職員が熱意をもち、協力して各教育活動に取り組んでいく。</p> <p>・②については、教職員一人一人の業務の負担を軽減できるよう、業務の見直しを図ったり、引き続き協力し合ったりしながら業務に取り組んでいく。</p>	◇教職員の肯定的回答	94.1%⇒100%↑	+5.9						
◇教職員の肯定的回答	94.1%⇒100%↑	+5.9										
<p>4- (3) 学校における働き方改革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 95%以上</p>	<p>① 自らの退勤時間の設定をしたり、職員会議等で電子データを有効に活用し、ペーパーレス化を図ったりするなど、職場環境改善の推進を図る。</p> <p>② 学級支援事務に依頼する仕事の内容について共通理解を図り、有効活用に努め、児童と向き合う時間の確保や業務の効率化を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>◇教職員の肯定的回答</td> <td>100%⇒100%</td> <td>±0.0</td> </tr> </table> <p>B</p> <p>・①については、全職員が勤務時間を意識し、効率的に業務を行うことができた。職員会議や起案の際にペーパーレス化を促進することで経費削減につながった。</p> <p>・②については、依頼する内容について共通理解を図りながら、学級支援事務と連携を図り、児童と向き合う時間の確保に努めた。</p> <p>・③については、全職員が積極的に自分の業</p>	◇教職員の肯定的回答	100%⇒100%	±0.0						
◇教職員の肯定的回答	100%⇒100%	±0.0										

		③ 業務効率化の視点から、積極的に業務の洗い出しと可視化を進めたり、教職員の提案を活用したりすることで、業務改善を促進する。	務の見直しに取り組むことができた。 【次年度の方針】 ・①については、ノー残業デーや勤務時間を意識した働き方、職員会議や起案のペーパーレス化をより一層推進していく。 ・②については、児童と向き合う時間の確保や業務の効率化を目指し、教員業務支援事務に依頼する内容の共通理解を図りながら、連携して業務を行う。 ・③については、より効率的に学校業務を行うことができるよう、積極的な業務の見直しを行う。
5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。  【数値指標】 児童・保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上	① 国本地域学校園ビジョンに基づき、「自ら学び、思いやりのある児童の育成」を重点として小中一貫教育・地域学校園を推進するとともに、取組状況をホームページや各種たよりなどで積極的に保護者や地域に向けて情報発信する。  ② 乗り入れ授業、年2回の全体会、6年生の進学先中学校訪問等を、目的を明確にして計画的に実施する。  ③ 地域学校園事務室や、学校一人配置職員の分科会を通して、学校園内の相互支援体制を充実する。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答 95.5%⇒100%↑ +4.5 ◇保護者の肯定的回答 62.5%⇒78.9%↑ +16.4 ◇教職員の肯定的回答 88.2%⇒100%↑ +11.8 ◇地域住民の肯定的回答 92.3%⇒92.3% ±0.0  ・①については、地域学校園4校の連携を図りながら、小中合同で取り組む活動について運営会議で話し合い、小中合同あいさつ運動を実施した。 ・②については、10月21日に国語の授業で乗り入れ授業を、1月16日に6年生の進学先中学校訪問を実施した。また、5・1月に地域学校園全体研修会を行った。 ・③については、定期的に地域学校園の学校一人配置職員の分科会が開かれ、活動状況や各校の実態などの情報交換などを行い、学校間の連携を図ったり、地域学校園で統一した図書館だよりや給食だより、献立の作成を行ったりした。 【次年度の方針】 ・①については、今後も連携を図りながら、乗り入れ授業やあいさつ運動等の活動の様子をホームページや児童指導だより等で情報発信すると共に、ホームページで情報発信していることを保護者に周知していく。 ・②については、引き続き中学校から小学校への乗り入れ授業や進学先中学校訪問、年2回の全体会と運営会議を計画的に遺漏なく実施していく。 ・③については、今後も定期的に地域学校園の学校一人配置職員の分科会を実施し、学校園相互連携と相互支援体制を充実させていく。
5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。  【数値指標】 保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上	① 読書ボランティアによる読み聞かせ、校外学習、農業体験学習、ろまんちっく村における自然体験の学習など、地域の人材や地域の企業等の教育力を生かして、生活科、総合的な学習の時間、社会科等の学習を充実する。また、その教育活動をホームページや各種たよりなどで保護者や地域の方々に発信し、学校がどのように地域等と連携しているのかを積極的に周知する。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答 100%⇒96.3%↓ -3.7 ◇保護者の肯定的回答 72.0%⇒75.0%↑ +3.0 ◇教職員の肯定的回答 100%⇒100% ±0.0 ◇地域住民の肯定的回答 84.6%⇒92.9%↑ +8.3  ・①については、地域の教育力を活用した学習を全ての学年で実施することができた。1年生の生活科の学習では、学区内にあるろまんちっく村で自然体験学習や店舗で働く方にインタビュー活動を行った。2年生の生活科の学習では、ろまんちっく村の店

		<p>② 地域協議会を有効活用し、地域コーディネーターと連絡・調整を密に行い、学校を支援するボランティアを積極的に募り、校内の環境美化、児童の学習支援の充実を図る。</p>	<p>舗で働く方にインタビュー活動を行った。3年生の総合的な学習の時間では、地域にいる様々な分野の名人に來校してもらい体験活動を行った。4年生の総合的な学習の時間では、宗田獅子舞保存会の方に月2回ほど來校していただき、地域に伝わる伝統文化である宗田獅子舞を教わり、地域の行事や収穫祭で披露することができた。5年生の総合的な学習の時間では、地域の環境問題や農産物について、インタビュー調査をしたり、体験活動をしたりすることができた。6年生の卒業制作では、地域の陶芸家の方に指導をいただき、作品を作り上げることができた。また、毎週火曜日に読書ボランティアの方による読み聞かせを実施した。</p> <p>B</p> <p>・②については、校内の掲示物や清掃活動等の学校支援ボランティアを募り、校内環境美化の充実に努めた。</p> <p><b>【次年度の方針】</b></p> <p>・①については、地域の人材や企業、各種団体、ボランティアの支援を得た取組を積極的に進めると共に、それらの取組を積極的に学年だよりやホームページなどで保護者や地域住民に周知し、学校の取組についての理解を図る。</p> <p>・②については、地域コーディネーター等との連絡・調整を密に行い、地域人材を積極的に活用し、地域の教育力を活かした教育活動が展開できるようにする。</p>									
<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p><b>【数値指標】</b> 保護者・地域住民の肯定的回答 95%以上</p>	<p>① 日頃から、校舎内外の巡視に努めるとともに、毎月安全点検を実施し、必要な箇所を修理・修繕を迅速に行うなど、学校教育環境の整備に努める。また、職員による常時の校内巡視や安全点検等により危険箇所の迅速な発見や報告により安全確保の徹底を図る。</p> <p>② 危機管理マニュアルや避難者初期支援マニュアルの見直しを行い、危機管理体制について教職員や関係者との共通理解を図るとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。</p>	<p><b>【達成状況】</b></p> <table border="1"> <tr> <td>◇保護者の肯定的回答</td> <td>90.9%⇒87.5% ↓</td> <td>-3.4</td> </tr> <tr> <td>◇教職員の肯定的回答</td> <td>100%⇒100%</td> <td>±0.0</td> </tr> <tr> <td>◇地域住民の肯定的回答</td> <td>92.9%⇒100% ↑</td> <td>+7.1</td> </tr> </table> <p>B</p> <p>・①については、日直が、校内巡視を行うとともに、毎月1回全職員で安全点検を行い、危険な箇所は、その都度修理・修繕を行った。また、機動班にも学校環境整備作業を依頼した。</p> <p>B</p> <p>・②については、危機管理マニュアルに基づき、年4回の避難訓練や引き渡し訓練、交通安全教室などを行い、児童の安全に対する意識を高めることができた。</p> <p>・③については、熱中症対策として、給水のために水筒を持参するように保護者に呼び掛けた。また、換気、うがい、手洗いの指導を繰り返し行った。</p> <p><b>【次年度の方針】</b></p>	◇保護者の肯定的回答	90.9%⇒87.5% ↓	-3.4	◇教職員の肯定的回答	100%⇒100%	±0.0	◇地域住民の肯定的回答	92.9%⇒100% ↑	+7.1
◇保護者の肯定的回答	90.9%⇒87.5% ↓	-3.4										
◇教職員の肯定的回答	100%⇒100%	±0.0										
◇地域住民の肯定的回答	92.9%⇒100% ↑	+7.1										

		③ 熱中症予防対策、インフルエンザ等の感染症拡大防止対策など、感染症の状況に応じた保健指導管理に努める。また、児童が自主的、自発的に健康管理に取り組めるよう、保健委員による啓発活動や集会活動を行う。	<p>・①については、今後も毎日、日直が、校内巡視を行い、毎月1回全職員で安全点検を行う。危険な箇所は、すぐに報告し、迅速に修理・修繕を行う。また、機動班にも学校環境整備作業を依頼する。</p> <p>・②については、今後も危機管理マニュアルに基づき、年4回の避難訓練や引き渡し訓練、交通安全教室などを行い、児童の安全に対する意識を高めていく。さらに次年度は、休み時間中に避難訓練を実施する等、児童が自ら危険を察知し、回避できる行動力を育成する。</p> <p>・③については、来年度も熱中症やインフルエンザ蔓延予防対策のため、水筒を持参するように保護者に呼び掛ける。また、引き続き、換気、手洗い、うがいの指導も行う。児童が自ら健康管理に留意し、体調管理できるように各学級での指導、保健だよりや保健委員会の呼びかけ等を行っていく。</p>
6-(2) 学校のデジタル化推進	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 95%以上</p>	<p>① 教科の学びを深めるため、1人1台端末での協働学習支援ツールを積極的に学習活動に取り入れる。</p> <p>② 統合型校務支援システムを運用し、週案の作成及び授業時数の管理を行うとともに、保健管理ソフトにより、児童の健康状態の把握及び記録を行うことにより、教職員の業務の負担軽減を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>◇教職員の肯定的回答 100%⇒100% ±0.0</p> <p>・①については、協働学習支援ツールを積極的に学習活動に取り入れ、教科横断的な学びを推進したり、児童が関わり合いながら課題解決したりできるよう努めた。</p> <p>・②については、統合型校務支援システムを運用し、週案の作成及び授業時数の管理を行うとともに、保健管理ソフトにより、児童の健康状態の把握及び記録を行った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・①については、今後も協働学習支援ツールを積極的に学習活動に取り入れ、教科の学びを深める。</p> <p>・②については、引き続き、統合型校務支援システムを適正に運用し、効率的に授業の準備や該当業務にあたるようにする。</p>
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	<p>B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 児童・保護者・地域住民・教職員の肯定的回答 95%以上</p>	<p>① 誰に対しても、時と場に応じた気持ちのよいあいさつができるよう、発達段階に応じてあいさつの意義や心的効果等について指導したり、昇降口に本校のあいさつの度合いを視覚化できる掲示物を作成したりし、地域住民にも自発的にあいさつができるよう啓発に努める。また、言葉遣いについては、教職員との会話を通して日常的に指導する。</p> <p>② 気持ちのよいあいさつを推進するために、年に2回、児童主体の「校内あいさつ強化週間」を計画する。取組内容は児童の状況を踏まえて、運営委員会で話し合い決定する。また、その様子を学校ホームページや児童指導だよりを通じて保護者や地域に発信する。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>◇児童の肯定的回答 98.3%⇒98.1% ↓ -0.2</p> <p>◇保護者の肯定的回答 84.6%⇒96.0% ↑ +11.4</p> <p>◇教職員の肯定的回答 88.2%⇒88.2% ±0.0</p> <p>◇地域住民の肯定的回答 100%⇒100% ±0.0</p> <p>・①については、誰に対しても、時と場に応じた気持ちのよいあいさつができるよう、年間を通じてあいさつの指標（あいさつレベル）を示し、自発的なあいさつの啓発に努めた。</p> <p>・②については、運営委員会を中心に年2回の「校内あいさつ強化週間」を実施し、児童の実態に合わせた課題や目標を設定し、それを達成するための取組を実施した。また、地域協議会主催の「あいさつ標語コンクール」の募集を行った。あいさつの様子をホームページや児童指導だより等で積極的に情報</p>

		<p>③ 国本地域学校園の小中合同で朝のあいさつ運動を行うとともに、保護者及び地域協議会等と連携したあいさつ運動を行うなど、家庭や地域にもあいさつをすることへの意識を高めていく。</p>	<p>発信もすることで意識を高めることができた。</p> <p>・③については、小中合同で朝のあいさつ運動を実施した。また、地域協議会主催の「あいさつ標語コンクール」では、家庭や地域の協力を得て審査等を行ったことで、保護者及び地域への啓発活動となった。</p> <p><b>【次年度の方針】</b></p> <p>・①については、教職員が率先してあいさつを行うなどしながら、時と場に応じたあいさつができるよう指導する。また、場に応じた言葉遣いができるよう継続的に指導する。特に、目上の人への言葉遣い、あいさつについて、教職員との会話等を通して、日常的に指導する。また、「です」「ます」や受け答えの返事などの指導については、教職員間での共通理解を図る。</p> <p>・②については、あいさつの習慣化のため、日常的な指導をしたり、年に2回、児童主体の「校内あいさつ強化週間」を計画したりする。また、あいさつ運動の様子をホームページや児童指導だより等で積極的に情報発信をする。「あいさつ標語」の看板設置をしたりするなど、地域協議会とも連携しながら、あいさつできる国西っ子の自覚を育てる。</p> <p>・③については、今後も引き続き小中合同のあいさつ運動や地域協議会と連携したあいさつ運動を行うことで、児童や家庭、地域にあいさつをすることへの意識を高める。</p>												
<p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p><b>【数値指標】</b> 児童・保護者・地域住民・教職員の肯定的回答 95%以上</p>	<p>① 「よい子のやくそく」を各教室に掲示し、児童が正しく判断し責任ある行動がとれるよう指導するとともに、「行動ふりかえりシート」を活用して、自分の行動を振り返ることで、発達段階における目指す姿を確認し、自ら規律ある生活を実践しきまりやマナーを守ろうとする態度を育成する。</p> <p>② 児童が組織する運営委員会が自分たちの生活の実態に合わせた生活目標を設定し、帰りの会で振り返りながら、基本的生活習慣の定着を図る。</p>	<p><b>【達成状況】</b></p> <table border="1"> <tr> <td>◇児童の肯定的回答</td> <td>100%⇒98.1%↓</td> <td>-1.9</td> </tr> <tr> <td>◇保護者の肯定的回答</td> <td>92.0%⇒92.0%</td> <td>±0.0</td> </tr> <tr> <td>◇教職員の肯定的回答</td> <td>100%⇒94.1%↓</td> <td>-5.9</td> </tr> <tr> <td>◇地域住民の肯定的回答</td> <td>100%⇒100%</td> <td>±0.0</td> </tr> </table> <p>B</p> <p>・①については、日々の指導の中で、よいところをほめて自己肯定感を高め、互いに認め合う「友達のよいところの発表」を継続した。</p> <p>・②については、生活目標をもとに日々の振り返りを続けたことで、きまりやマナーを意識して生活できるようになった。また、学校行事や節目に応じた生活目標を計画的に設定することにより、場に応じたきまりや</p>	◇児童の肯定的回答	100%⇒98.1%↓	-1.9	◇保護者の肯定的回答	92.0%⇒92.0%	±0.0	◇教職員の肯定的回答	100%⇒94.1%↓	-5.9	◇地域住民の肯定的回答	100%⇒100%	±0.0	<p>B</p>
◇児童の肯定的回答	100%⇒98.1%↓	-1.9													
◇保護者の肯定的回答	92.0%⇒92.0%	±0.0													
◇教職員の肯定的回答	100%⇒94.1%↓	-5.9													
◇地域住民の肯定的回答	100%⇒100%	±0.0													

		<p>③ きまりやマナーを守り、主体的に行動しようとする規範意識が身に付くよう、ルールや約束等の意義を指導するとともに、児童自らがルールを作り遵守させる場を設定する。また、基本的生活習慣の定着を学年だよりや児童指導だより、学級懇談会等で周知し、家庭への協力を依頼して啓発を図る。</p>	<p>マナーを意識できるようになった。</p> <p>・③については、あいさつ・返事の奨励、忘れ物の予防、ハンカチの携帯、名札着用等の基本的生活習慣の定着に向けて、基本的な生活習慣の指導を行った。さらに、家庭との連携を強化し、効果的な指導を行うために、基本的な生活習慣を身に付けることについては、きまりを守ったりマナーを身に付けたりすることの必要性を学年だよりや児童指導だより等で周知が十分ではなかった。</p> <p><b>【次年度の方針】</b></p> <p>・①については、日々の指導の中で、よいところをほめて自己肯定感を高め、互いに認め合い「良さの発表」を継続したり、児童会主催によるいじめゼロ運動や、あいさつ運動、学校行事や縦割り班活動で異学年交流を進めたりすることで、児童の思いやりの心を育てる。</p> <p>・②については、今後も集会時等に生活のきまりについての指導を行うとともに、毎日の振り返りを続けながら育成を図る。生活目標については、児童の実態と学校行事を関連させながら、運営委員が話し合って決定し、周知を図る。</p> <p>・③については、年度初めの学級懇談会で「よい子のやくそく」を保護者に紹介して共通理解を図る。そして、今後もあいさつ・返事の奨励、忘れ物の予防、ハンカチの携帯、名札着用等の基本的生活習慣の定着を学年だよりや児童指導だより、学級懇談会等で周知し、家庭への啓発を図る。</p>											
<p>B3 児童は、学校行事や地域の行事等で、地域の人や保護者と児童が交流する機会がある。</p> <p><b>【数値指標】</b> 児童・保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 国本西小学校地域協議会が行う学校教育支援活動のうち、朝の読書タイムにおける読み聞かせ、各教科等における学習支援ボランティアの活用、家庭・地域教育活動のうち、ホタル観賞会等の実施など多くの地域住民や保護者と児童が交流することで、充実した教育活動が実施できていることに気付かせる。また、その教育活動をホームページや各種たよりなどで積極的に保護者や地域に向けて情報発信する。</p> <p>② 各学年の教科等において、地域の人材資源を活用した学習内容を計画的に実施する中で、関係する地域の人々や保護者との交流の機会を設定し、より効果的な学習活動を設定する。活動の様子を、各種たより、ホームページ等で周知する。</p>	<p>B</p> <p><b>【達成状況】</b></p> <table border="1"> <tr> <td>◇児童の肯定的回答</td> <td>96.6%⇒90.7% ↓</td> <td>-5.9</td> </tr> <tr> <td>◇保護者の肯定的回答</td> <td>84.6%⇒87.5% ↑</td> <td>+2.9</td> </tr> <tr> <td>◇教職員の肯定的回答</td> <td>100%⇒100%</td> <td>±0.0</td> </tr> <tr> <td>◇地域住民の肯定的回答</td> <td>85.7%⇒100% ↑</td> <td>+14.3</td> </tr> </table> <p>B</p> <p>・①については、読み聞かせボランティアを活用し、児童の学習支援の充実を図った。また、学校・家庭・地域と連携し、ほたるの観賞会や学校宿泊体験、あいさつ標語コンクール等を実施した。</p> <p>・②については、総合的な学習の時間において、地域の人材資源を活用した学習内容を計画的に実施した。</p> <p><b>【次年度の方針】</b></p> <p>・①については、今後も専門性を有する地域人材の活用を積極的に進め、地域・家庭・学校が一体となって児童の健全育成を目指す。また、校内に地域協議会活動の掲示物を貼るコーナーを設置し、児童に地域の方々のおかげで充実した教育活動が行われていることに気付かせる。</p> <p>・②については、各学年の教科等において、地域の人材資源を活用した学習内容を計画的に実施するとともに、清掃ボランティアやミシンボランティアを募り、児童と地域の人々や保護者との交流の機会を設定する。</p>	◇児童の肯定的回答	96.6%⇒90.7% ↓	-5.9	◇保護者の肯定的回答	84.6%⇒87.5% ↑	+2.9	◇教職員の肯定的回答	100%⇒100%	±0.0	◇地域住民の肯定的回答	85.7%⇒100% ↑	+14.3
◇児童の肯定的回答	96.6%⇒90.7% ↓	-5.9												
◇保護者の肯定的回答	84.6%⇒87.5% ↑	+2.9												
◇教職員の肯定的回答	100%⇒100%	±0.0												
◇地域住民の肯定的回答	85.7%⇒100% ↑	+14.3												

<p>B 4 児童は自主的に家庭学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 児童・保護者・教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 家庭学習の内容の工夫、取組状況の確認、学習内容の確実な習得や意欲の向上を図るための適切な声掛けをし、課題意識をもって家庭学習に取り組めるよう指導・支援、家庭への啓発に努める。</p> <p>② 日記・作文等の課題を実施し、自分の考えを積極的に表現する能力や態度の育成を図る。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>◇児童の肯定的回答</td> <td>93.2%⇒88.9%</td> <td>↓</td> <td>-4.7</td> </tr> <tr> <td>◇保護者の肯定的回答</td> <td>80.8%⇒75.0%</td> <td>↓</td> <td>-5.8</td> </tr> <tr> <td>◇教職員の肯定的回答</td> <td>88.2%⇒100%</td> <td>↑</td> <td>+11.8</td> </tr> </table> <p>・①については、家庭学習の手引きを用いて学習内容の定着が図れるような家庭学習を推進したり、学習意欲が高まるような声掛けをしたりして課題意識をもって家庭学習に取り組めるよう指導・支援に努めた。</p> <p>・②については、作文ノートや ICT を活用し日記・作文等の課題を実施し、表現力の向上に努めた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・①については、課題意識をもって家庭学習に取り組めるようにする。学び方の具体的な提示、アドバイス等を「学べ！国西っ子」の合言葉で紹介する。</p> <p>・②については、発達段階に応じ、作文ノートや ICT を活用し日記・作文等の課題を実施する。</p>	◇児童の肯定的回答	93.2%⇒88.9%	↓	-4.7	◇保護者の肯定的回答	80.8%⇒75.0%	↓	-5.8	◇教職員の肯定的回答	88.2%⇒100%	↑	+11.8
◇児童の肯定的回答	93.2%⇒88.9%	↓	-4.7												
◇保護者の肯定的回答	80.8%⇒75.0%	↓	-5.8												
◇教職員の肯定的回答	88.2%⇒100%	↑	+11.8												
<p>B 5 児童は、自主的に自分の健康に注意して生活している。</p> <p>【数値指標】 児童・保護者・教職員の肯定的回答 95%以上</p>	<p>① 縦割り班活動や委員会活動を通して、昼休みや業間には、友達と関わり合いながら体を動かす遊びや運動することを推奨し、体力の向上を図る。</p> <p>② 鉄棒、水泳、縄跳び、持久走等の検定や記録カードを活用し、児童自らが進んで運動に取り組むことを促す。</p> <p>歯磨きや手洗いの掲示をしたり、運動会等の時期には手洗いを生活目標に設定したりすることで、児童が自ら進んで健康を意識するよう促す。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>◇児童の肯定的回答</td> <td>91.5%⇒94.4%</td> <td>↓</td> <td>+2.9</td> </tr> <tr> <td>◇保護者の肯定的回答</td> <td>76.0%⇒83.3%</td> <td>↑</td> <td>+7.3</td> </tr> <tr> <td>◇教職員の肯定的回答</td> <td>94.1%⇒94.1%</td> <td></td> <td>±0.0</td> </tr> </table> <p>【次年度の方針】</p> <p>・①については、縦割り班活動などを通して、友達と関わり合いながら運動の推奨をし、体力の向上を図った。</p> <p>・②については、検定表やがんばりカードを活用し、児童自らが進んで運動に取り組むことを促した。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・①については、引き続き、縦割り班活動などを通して、友達と関わり合いながら運動の推奨をし、体力の向上を図る。</p> <p>・②については、検定表やがんばりカードを活用し、児童自らが進んで運動に取り組むことを促す。</p>	◇児童の肯定的回答	91.5%⇒94.4%	↓	+2.9	◇保護者の肯定的回答	76.0%⇒83.3%	↑	+7.3	◇教職員の肯定的回答	94.1%⇒94.1%		±0.0
◇児童の肯定的回答	91.5%⇒94.4%	↓	+2.9												
◇保護者の肯定的回答	76.0%⇒83.3%	↑	+7.3												
◇教職員の肯定的回答	94.1%⇒94.1%		±0.0												

**〔総合的な評価〕**

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 1 国本西小学校（以下、本校）と宇都宮市立全小学校(69校)（以下、市全小学校）との比較
- (1) 本校の肯定的回答割合が、市全小学校の平均を上回っているもの  
全63項目中45項目(71.4%)  
**【内訳】**  
 ・教職員 22項目のうち18項目(81.8%)  
 ・保護者 15項目のうち4項目(26.7%)  
 ・地域住民 9項目のうち6項目(66.7%)  
 ・児童生徒 17項目のうち17項目(100%)
- (2) 本校の全評価項目の肯定的回答割合と市全小学校の全評価項目の肯定的回答割合の平均を比較した結果、市全小学校の肯定的回答割合の平均を5%以上、上回っているもの  
全63項目中16項目(25.4%)  
**【内訳】**  
 ・教職員 22項目のうち3項目  
 A3(児童生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。) (+5.2%)  
 A4(児童生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。) (+5.7%)  
 A16(勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。) (+8.1%)  
 ・保護者 15項目のうち1項目  
 B1(児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。) (+11.8%)  
 ・地域住民 9項目のうち2項目  
 B1(児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。) (+7.3%)  
 B2(児童生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。) (+5.5%)  
 ・児童生徒 17項目のうち10項目  
 A3(児童生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。) (+5.4%)  
 A4(児童生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。) (+5.5%)  
 A5(児童生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をより良くしようとしている。) (+5.4%)  
 A6(児童生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。) (+10.2%)  
 A7(児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。) (+8.2%)  
 A8(児童生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。) (+10.1%)  
 A9(児童生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。) (+9.1%)  
 A17(学校は、「小中一貫教育・地域学校園の取組を行っている。)(+10.0%)  
 B1(児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。) (+7.6%)  
 B2(児童生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。) (+5.8%)
- (3) 本校各評価者の肯定的回答割合と市全小学校の各評価者の肯定的回答割合の平均を比較した結果、市全小学校の平均を下回っているもの  
全63項目中18項目(28.6%)  
**【内訳】**  
 ・教職員 22項目のうち4項目  
 A2(児童生徒は、思いやりの心をもっている。) (市平均との差-2.9%)  
 A5(児童生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をより良くしようとしている。) (市平均との差-7.6%)  
 A18(学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。) (市平均との差-4.7%)  
 B1(児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。) (市平均との差-2.2%)  
 ・保護者 15項目のうち11項目  
 A2(児童生徒は、思いやりの心をもっている。) (市平均との差-17.7%)  
 A3(児童生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。) (市平均との差-1.5%)  
 A7(児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。) (市平均との差-3.4%)

A 8(児童生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。)	(市平均との差-13.3%)
A11(教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。)	(市平均との差-36.6%)
A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。)	(市平均との差-32.8%)
A13(学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。)	(市平均との差-25.5%)
A14(教職員は、分かる授業や児童生徒にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。)	(市平均との差-14.4%)
A17(学校は、「小中一貫教育・地域学校園の取組を行っている。)	(市平均との差-2.8%)
A18(学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。)	(市平均との差-16.0%)
A19(学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。)	(市平均との差-3.3%)

**・地域住民 9 項目のうち3項目**

A11(教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。)	(市平均との差-3.2%)
A17(学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。)	(市平均との差-2.5%)
A18(学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。)	(市平均との差-4.5%)

**・児童生徒 17 項目のうち0項目**

2 本校における肯定的回答割合の昨年度との比較

(1) 本校の肯定的回答割合について、昨年度と今年度の肯定的回答割合を比較し、昨年度よりも上回ったもの

全 73 項目中 24 項目 (32.9%)

**【内訳】**

- ・教職員 25 項目のうち 5 項目 (20.0%)
- ・保護者 18 項目のうち 6 項目 (33.3%)
- ・地域住民 10 項目のうち 3 項目 (30.0%)
- ・児童生徒 20 項目のうち 11 項目 (55.0%)

(2) 本校の全評価項目の肯定的回答割合のうち、今年度と昨年度の肯定的回答割合を比較した結果、昨年度を5%以上、上回っているもの

全 73 項目中 14 項目 (19.2%)

**【内訳】**

**・教職員 25 項目のうち 5 項目**

A 7(児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。)	(+5.9%)
A 9(児童生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。)	(+5.9%)
A15(学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。)	(+5.9%)
A17(学校は、「小中一貫教育・地域学校園の取組を行っている。)	(+11.8%)
B 4(児童は、自主的に家庭学習に取り組んでいる。)	(+11.8%)

**・保護者 18 項目のうち 4 項目**

A 4(児童生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。)	(+7.4%)
A17(学校は、「小中一貫教育・地域学校園の取組を行っている。)	(+16.4%)
B 1(児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。)	(+11.4%)
B 5(児童は、自主的に自分の健康に注意して生活している。)	(+7.3%)

**・地域住民 10 項目のうち 3 項目**

A18(学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。)	(+8.3%)
A19(学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。)	(+7.1%)
B 3(児童は、学校行事やボランティア活動等、地域の人や保護者と交流する機会がある。)	(+14.3%)

**・児童生徒 20 項目のうち 2 項目**

A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。)	(+6.8%)
A13(学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。)	(+5.1%)

(2) 本校の各評価者の肯定的回答割合が、昨年度より下回っているもの  
全73項目中23項目(31.5%)

【内訳】

・教職員 25項目のうち3項目

A5(児童生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をより良くしようとしている。) (昨年度との差-11.8%)

A18(学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。) (昨年度との差-5.9%)

B2(児童生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。) (昨年度との差-5.9%)

・保護者 18項目のうち11項目

A1(児童生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習している。) (昨年度との差-4.5%)

A2(児童生徒は、思いやりの心をもっている。) (昨年度との差-12.5%)

A3(児童生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。) (昨年度との差-4.6%)

A7(児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。) (昨年度との差-9.2%)

A8(児童生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。) (昨年度との差-24.0%)

A11(教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。) (昨年度との差-29.5%)

A12(教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。) (昨年度との差-21.7%)

A13(学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。) (昨年度との差-16.0%)

A14(教職員は、分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。) (昨年度との差-9.9%)

A19(学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。) (昨年度との差-3.4%)

B4(児童は、自主的に家庭学習に取り組んでいる。) (昨年度との差-5.8%)

・地域住民 10項目のうち0項目

・児童生徒 20項目のうち9項目

A1(児童生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習している。) (昨年度との差-2.5%)

A2(児童生徒は、思いやりの心をもっている。) (昨年度との差-0.6%)

A4(児童生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。) (昨年度との差-0.2%)

A7(児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。) (昨年度との差-0.5%)

A18(学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。) (昨年度との差-3.7%)

B1(児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。) (昨年度との差-0.2%)

B2(児童生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。) (昨年度との差-1.9%)

B3(児童は、学校行事やボランティア活動等、地域の人や保護者と交流する機会がある。) (昨年度との差-5.9%)

B4(児童は、自主的に家庭学習に取り組んでいる。) (昨年度との差-4.3%)

3 学校経営の諸計画における成果と課題

(1) 学校運営についての評価

【成果】

学校運営に関する評価項目においては、本校の各評価者の肯定的回答割合と市全小学校の各評価者の肯定的回答割合の平均を比較した結果、14項目中8項目(教職員A15, 16, 17, 19, 20, 地域住民A19, 児童生徒A17, 18)が、市全小学校の平均を上回った。

なお、以下2項目の本校の肯定的回答割合は、市平均を5%以上、上回った。

A16(勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。) (教職員 市平均との差+8.1%)

A17(学校は、「小中一貫教育・地域学校園の取組を行っている。)(児童生徒 市平均との差+10.0%)

学校運営に関する喫緊の課題である「働き方改革」に関する項目A16では、統合型校務支援システムを活用した校務に関する事務処理の効率化や児童と向き合う時間の確保に向けた業務内容の精選を行うなど、働き方改革が推進された。

また、「小中一貫教育・地域学校園の取組」に関する項目A17では、地域学校園4校の連携を図りながら、小中合同でのあいさつ運動や中学校の先生による乗り入れ授業、6年生の進学先中学校訪問などを実施したことにより、全児童が小中一貫教育・地域学校園での活動において達成感や満足感を得られたからと考えられる。

【課題】

学校運営に関する評価項目において、市全小学校の肯定的回答割合を下回ったのは14項目中6項目であった。なお、以下1項目の本校の肯定的回答割合は、市平均を5%以上、下回った。

A18(学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。) (保護者 市平均との差-16.0%)

A18については、児童の評価が高いのに対して保護者の評価が低いことから、地域の教育資源を活用した学習活動を学校ホームページや学年便りなどを用い、保護者に向け折に触れて周知していく。地域住民の評価については、評価者の主体である地域協議会委員の評価が低いことから、地域協議会と連携した事業について、学校担当(地域連携教員)と地域協議会担当(地域地域学校協働活動推進員)の連携を一層深め、より組織的に地域資源を生かした取組を実施していく。

## (2) 学習指導についての評価

### 【成果】

学習指導に関連する項目においては、本校の各評価者の肯定的回答割合と市全小学校の各評価者の肯定的回答割合の平均を比較した結果、20項目中4項目(保護者A3, A7, A8, A14)を除き、市全小学校の平均を上回ったことから、おおむね今年度の取組を肯定的に評価されたと考える。

特に、以下6項目の本校の肯定的回答割合は、市平均を5%以上上回った。

A3(児童生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。) (教+5.2%, 児+5.4%)

A6(児童生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。) (児+10.2%)

A7(児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。) (児+8.2%)

A8(児童生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。) (児+10.1%)

A9(児童生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。) (児+9.1%)

A3については、教職員が児童のよさを認め励まし、児童の自己肯定感を高める指導を心掛けてきた。また、異学年の児童が関わる学校行事や児童会活動、清掃活動等とおした多様な人間関係の中で、上級生が下級生を思いやる気持ちや互いに協力する気持ちが培われたものとする。

本校の特色ある教育活動を通して、上級生と下級生が強い信頼関係で結ばれ、集団として諸活動に粘り強く取り組むよさが発揮された。

A6については、朝のESタイム、ALTを活用した英語集会を実施し、計画的・継続的に外国語の学習を行ったことにより、児童の英語を使ったコミュニケーションの機会が担保されたことが児童の高い肯定的評価につながったと考える。

A7については、低学年が生活科の学習で学校周辺の地域資源をもとにした校外学習を進めた。また、中学年の社会科、総合的な学習においては、地域の伝統文化である宗円獅子舞や地域の文化財などについて学び、高学年の総合的な学習においては、地域の特産物である新里ねぎや宇都宮学の調べ学習の中で宇都宮のよさを学んできたことが、評価されたものとする。

「デジタル機器や図書等の活用」に関する項目A8では、各学年の授業において一人一台端末を利用してインターネットで調べ学習を行ったり、各学年において毎週図書館を利用し、本にふれる機会を保障したりすることで、児童が場に応じてデジタル機器や図書を選択し学習に活用できるようになってきている。

### 【課題】

学習指導に関する評価項目においては、市全小学校の肯定的回答割合を下回ったのは20項目中4項目であった。

なお、以下2項目の本校の肯定的回答割合は、市平均を5%以上、下回った。

A8(児童生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。) (保-13.3%)

A14(教職員は、分かる授業や児童生徒にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。) (保-14.4%)

A8については、児童の肯定的評価が高いこととの乖離が見られる。学校における一人一台端末を使用した協働的な学習や読書活動の実態を積極的に周知し、保護者の理解を深めていくとともに、一人一台端末の利用については、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実するため、今後ともその活用方法等を研究していく。また、図書の活用については、学校における読書の推進、図書資料を利用した情報活用能力の向上、家庭における読書の推進等について着実に取組を進めて

いく。

A14についても、児童の肯定的回答が100%なのに対し、保護者の肯定的回答が市平均をかなり下回っており、乖離がみられる。保護者は児童から聞く授業の様子や家庭学習の様子から評価していると思われるので、授業参観など保護者が直接教員の授業を評価できる機会に、分かる授業を展開していることを見てもらう必要がある。また、必要に応じて、児童への支援の様子などを直接担任から保護者に伝えるなどして、個に応じてきめ細やかな指導をしていることを認識してもらうようにする。

### (3) 児童指導・健康指導についての評価

#### 【成果】

児童指導・健康指導に関する評価項目においては、本校の各評価者の肯定的回答割合と市全小学校の各評価者の肯定的回答割合の平均を比較した結果、29項目中8項目（A2教職員、保護者、A5教職員、A11保護者、地域住民、A12保護者、A13保護者、B1教職員）を除いて、市全小学校の平均を上回った。

特に、以下8項目の本校の肯定的回答割合は、市平均を5%以上上回った。

A4（児童生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。）（**教**+5.7%、**児**+5.5%）

A5（児童生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。）（**児**+5.4%）

B1（児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。）（**保**+11.8%、**地**+7.3%、**児**+7.6%）

B2（児童生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。）（**地**+5.5%、**児**+5.8%）

A4については、保護者に対しては、「保健だより」、「食育だより」を毎月発行したり、健康診断の結果を保護者に通知したりし、児童の健康面に関して家庭への周知や生活・健康の改善等について連携を図ったりした。

また、学校では、保健委員会や給食委員会の取組により児童自身の健康への関心を高めたり、体育的行事に合わせた各種検定、元気っ子チャレンジの実施等で児童の運動への関心や意欲が高まってきた。さらに、児童自らが危険を予測し、回避するなど、自らの命を守り抜く行動力の育成を図ったことが評価されたと考える。

A5については、本校児童一人一人が生活目標等を意識し、規則正しい生活を心掛けている。児童自身が高い規範意識をもち、学校教育目標のうちの「かしこく」を実践していることから肯定的回答が高いと考える。

B1については、「国西っ子のびのびプラン2025」において、児童のさわやかなあいさつが飛び交い、活力に満ちた学校を目指すことを掲げ、運営委員会による定期的なあいさつ運動など、計画的・組織的にあいさつの励行に取り組んできた結果、児童が率先して明るいあいさつをすることができるようになってきている。こうした取り組みにより、児童が率先してあいさつをすることができるようになってきており、一人一人の児童の成長や学校全体のあいさつに関する諸方策について評価されたものとする。

B2については、年間を通して生活目標に基づいて児童が自ら考え、規則正しい生活を実践できるよう、課題意識を持たせたり、生活態度の振り返りを行ったりしてきたことで、落ち着いた生活態度が見られることが評価されたと考える。

#### 【課題】

児童指導・健康指導に関する評価項目においては、市全小学校の肯定的回答割合を下回ったのは29項目中8項目であった。なお、以下5項目の本校の肯定的回答割合は、市平均を5%以上、下回った。

A2（児童生徒は、思いやりの心をもっている。）（**保**-17.7%）

A5（児童生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。）（**教**-7.6%）

A11（教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。）（**保**-36.6%）

A12（教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。）（**保**-32.8%）

A13（学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。）（**保**-25.5%）

A11、A12、A13の3項目は市平均をかなり下回った。いずれも保護者からの評価がかなり低く、児童を介して保護者に伝わる教職員の児童指導や学級経営の様子から評価されたものとする。一方で児童の評価は肯定的回答が100%であることから、保護者の評価との間に乖離がみられる。

A 2については、保護者が児童のどのような様相を見て思いやりの心をもっていないと判断しているのかを学級懇談会や個人懇談などの機会に把握し、道徳の授業などに活かし道徳的实践力を高めしていく。

A11 から 13 については、児童の肯定的回答が高いことから、教育相談などの場を活用した児童の気持ちに寄り添う指導や支援がある程度は児童に受け入れられていると考えられる。今後は、これらの指導を直接教職員から保護者に伝えるようにするなどし、保護者からの信頼を得ていく必要があると考える。

## 7 学校関係者評価

- ・ 学校評価のA 1 1～1 4について、保護者の評価が低いのは、もっと学校によくして欲しいという気持ちの表れだと思われる。児童からはよい評価が多く見られるので、保護者への伝わりが少ないだけだと思う。
- ・ 教職員が日々がんばっている様子が保護者の方々にうまく伝わっていないのはとても残念である。どのような方法をとれば、保護者の理解が得られるか、学校としての方策を考えてみてはどうだろうか。保護者は、ホームページ以外見ていない気がする。
- ・ 課題となっている保護者評価については、教育の実情をもっと学校と保護者と共有できるようにお互いに努力する時代に変化してきているために、その対応が必要となってきている。現代は、いろいろな意味で変革期となっており、学校が教育分野で変化してきていることの情報共有する場面を設定したり、学校が広報に力を入れることで、保護者とのコミュニケーションがスムーズになったりするような工夫をすることが社会から求められていると考える。教育現場の情報について、保護者との連絡を密に取り合うことで、理解を求めていくとよいのではないか。

## 8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・ 全体アンケートの22項目のうち、本校の肯定的回答割合が、市全小学校の平均を上回っているものが、全63項目中45項目（71.4%）であり、市全小学校の平均を下回った18項目についても、教職員の4項目は88%以上、地域住民の3項目は92%以上となっていることから、教職員・地域住民・児童は、学校運営、学習指導、児童指導・健康指導の事項について、概ね目標を達成することができたと考えられる。

今後、今年度の本校におけるうつのみや学校マネジメントシステムアンケートの結果等を踏まえ、本年度における学校運営の成果と課題をさらに検証し、次年度の学校運営の諸計画に生かしていきたい。

### 《学校経営》

- ・ 本校の特色ある教育活動である「地域に学ぶ」、「世界に学ぶ」、「ともに学ぶ」活動について、各教育活動において育てたい資質・能力を明確にし、それぞれの教育活動の目的を教職員が共通理解の下、組織的・計画的な教育活動を展開したり、効果的な教職員の指導・支援体制等を構築したりする。
- ・ 引き続き全学年において地域の教育資源を効果的に活用し、伝統を継承する人の生き方に触れる体験的な活動や、郷土の歴史、文化、伝統、産業、風土などについて理解する学習を通して、郷土への愛情と誇りを育むと共に、それが宇都宮のよさであることを認識させる。
- ・ 各教育活動において児童の様子を学校ホームページや各種たより等で積極的に保護者に周知するとともに、学校の教育活動に協力してくださる保護者や地域人材との連携を深めていくことで、地域の教育資源をより一層活用できるよう努力をしていく。
- ・ 小中合同でのあいさつ運動や中学校から小学校への乗り入れ授業などの小中一貫教育・地域学校園の取組について、積極的に学校ホームページや各種たより等で保護者や地域住民に情報発信するとともに、児童に地域の行事への参加を促し、地域住民との交流活動を通して、コミュニケーション力を高めしていく。

### 《学習指導》

- ・ 一人一台端末を用いた学習活動については、引き続き調査活動、思考活動、協働活動、制作活動の活用場面において効果的に活用することを通して、子供同士がつながり、自律的に課題解決に向かう学習者の育成を目指していく。

- ・ 図書の活用については、学校における読書の推進、図書資料を利用した情報活用能力の向上、家庭における読書の推進等について着実に取組を進めていくことで、保護者に学校図書館を学習の場面で有効活用していることを理解してもらう。
- ・ 「宇都宮モデル」を活用し、単元や題材等を見通した授業をデザインした上で、ねらいを明確にして実施することで主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進するとともに、授業参観や学校公開日に保護者や地域住民に日頃のきめ細やかな指導を観てもらうことで、分かる授業を実施し学力向上を図っていることを周知する。
- ・ 家庭学習については、「家庭学習の手引き」を用いた学び方の提示などの取組の効果が表れているものの、児童にことから、今後も継続して行うことで、児童に家庭学習の習慣化を定着させる。

#### 《児童指導》

- ・ 小規模校の強みを生かし、一人一人の児童の成長をきめ細やかに支援していく。特に、困難さを抱える児童に対しては、必要に応じて校内支援委員会で適切な指導・支援を検討するとともに、全職員が共通理解の下、組織的に児童の心理面、学習面、社会面、進路面、健康面の発達を支援する。
- ・ 不登校対策については、個別の教育相談や欠席状況などの情報をケース会議などで共有するなど、「チーム学校」でより早期の段階からの組織的・計画的な支援を推進していく。
- ・ 児童主体のいじめ根絶集会や道徳科の授業等において児童自らがいじめについて考え、意見を交わすことで、差別やいじめを許さない態度を身に付けさせ、思いやりや規範意識の醸成を図っていく。また、それらの活動を授業参観で公開したり、学校ホームページや各種たよりで保護者や地域住民に周知したりすることで、学校におけるいじめを生まない指導や支援についての理解を図る。
- ・ 担任が行う日頃の児童指導や教育相談での児童の気持ちに寄り添う指導や支援の様子を直接教員から保護者に伝え、指導内容を共有することでより効果的な指導となるようにすると共に、学校と保護者が連絡を密に取り合うことで、保護者からの信頼を得ていくようにする。

#### 《健康（保健安全・食育）・体力》

- ・ 健康や安全に気を付けて生活することについて、学校内の生活の様子と家庭や地域での生活の様子について、児童の意識や行動には差異がある。健康や安全について学校で習得した知識を生かし、家庭や地域における自身の行動に生かせるよう、学校においては一層実践的な指導を進めていく。また、家庭においては、各種たより等で学校での取組を周知し、家庭での協力を得られるよう努める。
- ・ 鉄棒・水泳・縄跳びの検定カードや持久走の記録カード等を活用し、児童が自ら進んで運動に取り組むことを促すとともに、学校での取組を家庭にも周知して、家庭と連携しながら児童の体力・技能の向上や底上げに努める。